

溝上 慎一の教育論(動画チャンネル) Number 3-1

※動画で用いるスライドはPDFで動画下にリンクで貼り付けています

高校生の学び成長するための『大学選び』①

溝上 慎一 Shinichi Mizokami, Ph.D.

学校法人桐蔭学園 理事長
桐蔭横浜大学 学長・教授

<http://smizok.net/>
E-mail mizokami@toin.ac.jp

学校法人河合塾 教育研究開発本部 研究顧問

【プロフィール】 1970年生まれ。大阪府立茨木高校卒業。神戸大学教育学部卒業、1996年京都大学助手、2000年講師、2003年准教授、2014年教授を経て、2019年4月より現在に至る。京都大学博士（教育学）。

*詳しくはスライド最後をご覧ください

※本動画は溝上が個人的に作成・提供するものです

はじめに

- 撮影技術は低くないと思うが、編集技術はまだまだ初心者レベル
- コメント「資料の数字等が見にくい」
- 「『大学選び』の解説動画を見たい」

質問へのリプライ

Q「どのくらい時間かけて動画作成されているのですか？」



溝上慎一 (2021). 高校生の学びと成長に向けた 「大学選び」—偏差値もうまく利用する— 東信堂

第1部 自身の「大学選び」の質を高める5つのポイント

第1章 Point 1 将来の見通しを持つ

第2章 Point 2 「大学で何を学びたいか」からではなく、「将来どのような職業に就きたいか」から「学部選び」を行う

第3章 Point 3 大学がアクティブラーニング型授業を積極的に推進しているかを調べる

第4章 Point 4 偏差値をうまく利用する

第5章 Point 5 三大都市圏以外の大学を選択肢に含める

第6章 (おまけ) 中小企業はおもしろい!

——ここから職業、「大学選び」を考えてみる

第2部 高校生からの質問に答える



「大学選び」の基本的視座

- ①大学進学が人生のゴールではない。大学で、そして仕事・社会で生涯にわたって学び成長するための「大学選び」を行うこと
- ②「大学選び」のプロセス自体が、ライフ（大学・仕事・社会）に対する見方・考え方を養う成長の機会となること
- ③偏差値は能力のレベルを見る時に利用すること

ご視聴有難うございました

To be continued

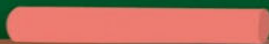
質問、コメントは個人メールで受け付けます。

E-mail mizokami@toin.ac.jp

- お名前、ご所属

※可能なら専門分野や教科、職位なども教えてください、回答の助けになります。
なお、動画内では個人のお名前等は出しません。

- 質問、コメント等



学校法人桐蔭学園 理事長
桐蔭横浜大学 学長・教授

1970年生まれ。大阪府立茨木高校卒業。神戸大学教育学部卒業、1996年京都大学助手、2000年講師、2003年京都大学准教授、2014年教授を経て、2018年9月に学校法人桐蔭学園へ。2019年同理事長、2020年より現職。京都大学博士（教育学）

日本青年心理学会理事、大学教育学会理事、“*Journal of Adolescence*” Editorial Board委員、文部科学省高等教育局スキームD（座長）、中央教育審議会初等中等教育局臨時委員、総合教育政策局リカレント教育審査委員、大学・高校の外部評価・指導委員など。日本青年心理学会学会賞受賞。

専門は、青年・発達心理学・教育実践研究（自己・アイデンティティ形成、自己の分権化、学びと成長、アクティブラーニング、学校から仕事・社会へのトランジション、人生100年時代のキャリア形成など）。著書に『自己形成の心理学—他者の森を駆け抜けて自己になる』（2008世界思想社、単著）、『現代青年期の心理学—適応から自己形成の時代へ』（2010有斐閣選書、単著）、『アクティブラーニングと教授学習パラダイムの転換』（2014東信堂、単著）、『アクティブラーニング型授業の基本形と生徒の身体性』（2018東信堂、単著）、『学習とパーソナリティ—「あの子はおとなしいけど成績はいいんですよね！」をどう見るか—』（2018東信堂、単著）、『高大接続の本質—「学校と社会をつなぐ調査」から見えてきた課題—』（2018学事出版、編著）など多数。

<http://smizok.net/>



著作紹介

溝上慎一 (2020). 『社会に生きる個性—自己と他者・拡張的パーソナリティ・エージェンシー—』
(学びと成長の講話シリーズ3) 東信堂

第1章 自己と他者の観点から見る学びと成長

1. 人の発達において他者理解は自己理解に先立つ
3. 自己とは——他者との対峙を通して発現する一個存在
6. 講義—辺倒の授業における学習においてさえ他者は組み込まれている
7. 学習プロセスに他者を組み込む——ペア・グループワークはなぜ求められるのか
9. リフレクション（振り返り）はメタ認知を働かせた言語活動
10. 自己内対話と学習

第3章 エージェンシー

1. OECDの学習者のエージェンシー
3. バンドューラのエージェンシー論—四つの特徴
5. 自己肯定感を高めるのではなく、自己効力感（エージェンシー）を高めよ
6. 内発的動機づけ・自己決定理論——主体的な学習の第I～II層
7. 記憶の情報処理から見た学習—自己関連づけ・自己生成

第4章 教育雑考

2. 自分が生徒の時にはアクティブラーニングをしてこなかった。なぜ今の生徒にここまで求めるのか
3. 社会に生きる個性を育てる——教授パラダイムと学習パラダイムに関連づけて
4. 生徒はアクティブラーニングを熱心におこなうが、教師は成果としての手応えを感じない。そこで起こっていることは？
5. アクティブラーニングと評価

